

〈日本SPF豚研究会誌〉

「All About Swine」投稿のお願い

SPF豚の普及に役立つ調査・研究論文及び防疫、飼養、流通、消費等に関する解説・資料等の原稿を募集しております。下記要領にご留意の上、ご投稿下さい。

1. 原稿は原則としてワープロを使用してA4用紙に22字×33行、横書きで作成する。手書きの場合は、原稿用紙を送付しますのでご請求下さい。
2. 原稿の1枚目には表題、投稿者名、所属機関名（郵便番号及び住所）を記す。2枚目以降の記述形式は特に定めないが、資料等を引用した場合は末尾に「参考資料」または「引用文献」の項目を設ける。
3. 表は原則として縦罫線を使用せず簡潔なものとし、また図はそのまま印刷が可能なように白色紙または方眼紙に墨汁で記入する。写真は原寸印刷が可能なように原則として横7cm丁度、縦7cm以下とする。
4. 原稿の送付先は当分の間「〒039-25 青森県上北郡七戸町字海内31 農林水産省家畜衛生試験場・東北支場 山本孝史」宛とする。

【編集後記】

暑中お見舞申し上げます。冷夏に見舞われた昨夏とは違って変わり今年は猛暑となりそうですが、皆さまお身体ご自愛下さい。

さて、ガットウルグアイラウンドの決着によりわが国の畜産はますます厳しい状況に置かれつつあります。そこで、農水省畜産局畜産経営課の木下氏に、今回合意した内容の解説と今後のわが国

養豚の課題についてご解説いただきました。特に合意の内容につき断片的な知識しか持ち合わせていなかった編集子には大変有益な内容でした。今後は外国産とコスト競争をするのではなく、高品質を全面に押し出して対抗するしか手はないのではないかと、そのためにはSPF豚はますます重要になってくるのではないかと思う今日この頃です。

6月の末にバンコクで国際養豚学会が開催されました。演題の陰から垣間見えるデンマークのSPF豚はきわめて高レベルと感じました。早田氏のデンマークSPF豚のレポートと併せて、わが国が競合するのは低価格の米国ではなく、高品質のデンマークとなるのではないかというのが編集子の私見です。

宮原強先生の「SPF豚講座」は、今号は都合により休載させていただきました。

私事ですが、編集子は今年の3月より青森県七戸町にある家畜衛生試験場東北支場に転勤となり愛犬と単身赴任中です。話には聞いていましたが、4月になって雪が融けるとその下には既にいろいろな植物が芽吹いているのには感動しました。5月には桜やつつじが春を待ちかねたかのように一斉に花を開きます。わが国の養豚も、苦しい雌伏の時を耐えた後、輝かしい飛躍を迎えたいものです。

(山本)

「All About Swine」

第5号 1994年7月発行 定価 1,500円

発行所 日本SPF豚研究会

〒305 つくば市観音台3-1-1

家畜衛生試験場